

# りんごだより

草笛学園 2025年 6月号



もう夏のような暑さが続いていますね。そして、梅雨に入っていき徐々に蒸し暑くなっていくと思われます。体調に気をつけて6月を乗り切りましょう！

## \*「おいしいねえ」と言える形容詞の世界\*

「おいしいねえ」、「きれいなお花だね」、「冷たいお水、気持ちいいねえ」など、3歳になりゆく子どもたちのなかに、形容詞の心地良い響きを感じれるようになります。ことばが出はじめた1歳児でも、花を指さして「きれい、きれい」と言うかもしれません、本当に、心を込めて「きれい」と言えるようになるのは、やはり3歳になってからです。

ときどき保育所の先生から、5歳、6歳になって、特定の事物の名称はいっぱい覚えるのに、経験や感情をことばにすることが少ない子どもたちのことを相談されることがあります。そんな子どもたちのことばに、形容詞の世界がみられにくいことがあります。それは、なぜでしょうか。

「おいしい」、「きれい」などの形容詞は、その食べものの味を感じ、その花の美しさを感じる感情とともに獲得されていくことばです。そして、このような感情は、子ども一人ではつくることのできない力です。おいしいごはんを食べたときに、「おいしいねえ」と言い合える人、きれいな花を見たときに、「きれいだねえ」と言い合える人、そんな関係があってこそ、つくりだされていくことばの世界です。共感とは、あまり感興のないことばですが、しかし文字通りの「共に感じる」という意味は、子どもの発達にとっては価値のある響きをもっています。常に子どもと同じ視線の高さで、子どもの心のなかに入って世界をながめていると、子どもが感じているであろうことが、自然におとの口をついて出てきます。そして、そのことばによって、子どもは自分の心のなかの感情を表すことばを知っていくのです。

障害をもっている子どもたちの生活を見ていると、食事ではまず偏食やマナーの指導があったりします。それもたいせつかもしれません。しかし、それだけの生活になるなら、子どもの心の中に、「おいしいねえ」と言い合える感情はつくられているのでしょうか。まず、人としての心が育つ、そんな生活を私は、この子らのために願っています。

参考文献 『発達の扉・上』 白石 正久 著



## 次回のりんご教室は…

りんご教室①…7月1日（火）9：20～11：15

→せいさくを行います

◎持ってくるもの 水筒・シューズ・必要に応じて着替え（材料費100円）

りんご教室②…7月15日（火）9：20～11：15

→みずあそびを行います

◎持つて来るもの 水着・タオル・水筒・シューズ・水遊び用パンツ（必要な方）

※保護者の方も濡れる可能性があるので、濡れても良い服や靴・タオル等を持って来て下さい

## 『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（次回からおたよりがホームページに掲載され、通信費が必要なため）制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください